

ぶんきょうくしょうがいしやちいきじりつしえんきょうぎかい
文京区障害者地域自立支援協議会

れいわ ねんど だい かいしょうがいとうじしやぶかい ようてんきろく
令和6年度 第1回障害当事者部会 要点記録

【日 時】 令和6年6月28日(火) 14時～15時30分

【場 所】 文京シビックセンター3階 障害者会館C 会議室

【出席者】 高山 直樹 (自立支援協議会 会長)

志村 健一 (自立支援協議会 副会長)

河野 孝志 (身体障害)

竹間 誠次 (知的障害)

永野 栄一郎 (知的障害)

中山 雅美 (精神障害)

柳澤 由美子 (精神障害)

吉田 由紀子 (身体障害)

永尾 真一 (区委員)

【補助人】 松下 功一

関口 梓

【事務局】 關、荒木田、河井、谷本、林 (文京区障害者基幹相談支援センター)

【開会前に事務局からの連絡】

・出欠確認

・傍聴及び会議内容の公開について確認

・記録のため、会議内容の録音と写真撮影についての確認

・資料の確認

1. 開会挨拶

・障害福祉課長 永尾課長 より

2. 事務局紹介及び今年度の当事者部会委員体制について(資料第0号)

・事務局より説明

・各委員の自己紹介

3. 議題

(1) 部会長の互選(資料第1号)

事務局より、当事者部会における部会長の役割を説明。

⇒立候補者なし、他推薦により河野委員が部会長に決定。

(2) 令和5年度全体会の振り返り(資料第3号 皆さんの意見記入シート)

事務局より、令和6年3月18日に行われた全体会の内容について説明。

全体会後のアンケート集計結果の感想として、当事者の方の話 を聞く機会がなかったが、それぞれ

の思いを聞くことができ良かった、当事者の方のお話 に共感した、自分の行動を振り返る機会に

なった、これまで以上に声かけをしていきたい、多くの参加者が集まり、傍聴者からも挙手による発言

があり、垣根を超えた一体感があった、お二人のお話に心を打たれた、このような機会がもっとあるとよい、当事者委員として自分の部会でも意見を述べていきたい、みんなで障害のある方もない方も自分らしく暮らしやすくなるように考えていきたい等、多くの感想、好評が寄せられた。

◆感想・意見

<当事者委員>

・半生を語るは前回の内容に続いて話ができ良かった。個人的に学校からの依頼を受け、自分の半生について語る講演活動を行なっている。

・民生委員は全体会当日に他会議と日程が重なってしまい不参加だったが、民生委員の参加があると良かった。次回以降は、別の障害の当事者がそれぞれの立場で半生を語る事ができると、様々な障害が理解されて良いと思う。

・障害者地域自立支援協議会にある複数の部会の報告を聞き、様々な会議活動があることが判り良かった。当事者委員の半生の話の伺い、他の障害について判り良かった。

・ご自身の半生についての話が素晴らしく感動した。半生を語ることは自分には難しいが、お二人は勇気を持って話されていたことに感銘を受けた。

・当事者部会の報告ができ良かった。もっと報告する機会があれば色々な人に話を聞いてもらいたい。

<自立支援協議会 会長>

・当事者委員の役割、発信することが大きなテーマ、今までも福祉祭りや様々な取り組みや活動に参加しているが、当事者の方々が自分の生活や人生について語ることはインパクトがあり、そのことが

障害の理解に繋がっている。全体会の一回だけでなく、発信場所、発信の方法などを工夫することで障害の理解が深まることになる。障害者差別という問題があるが、発信することでみんなが考えることにも繋がっていく。

(3) 令和6年度当事者部会の取り組み・スケジュールについて(資料第2号の1、資料第2号の2)

事務局より説明。

◆事務局案をふまえて意見交換

①防災体験ツアー

<当事者委員>

・起震車や消火器など以前から防災体験したかったので、是非参加したい。

・防災体験は何度も体験しているが、意識していても実際に身体が動くかどうか不安があるので機会があれば参加することを心掛けている。

・区民の皆さんと一緒に障害について考え、取り組みを充実させていきたい。

・消火器や起震車は以前体験したことがある。防災・避難所をテーマにした講演会で、避難所での生活では、男女のプライバシーやトイレ、シャワーなど様々な問題があることを聞いた。

・避難については自宅避難をするのか、避難所へ行くかという判断がある。視覚障害が避難所で避難

生活を送る場合、掲示板でアナウンスされても情報が入ってこない、トイレなど必要な場所への移動や

点字ブロックなどいくつも課題がある。防災館はすでにいくつか体験している。本所防災館では、水害

の体験があり、10 cm や 15 cm の水が流れ込んだ時の体験ができる。防災館によって体験内容

が異なるので、色々な場所に行くのも良いと思う。

・所定の避難所までは自宅から行きにくい、別の避難所までは行きやすいので異なる避難所に行っても構わないのか聞きたい。

②民生委員との交流会

<当事者委員>

・相談したいことがあった時に誰が民生委員の方なのか、わからなかった。委員の情報が誰にでもわかるようなシステムが必要ではないか。

・民生委員との交流会を以前行なったが、障害部会の担当だけだった。次に行なう時には、なるべく

多く民生委員・児童委員の方に参加してもらいたい。

・担当の民生委員の方から挨拶があり、何かあった時には電話してよいと案内があり、連絡先を玄関に貼っている。

<自立支援協議会 会長>

・防災館で単に体験するだけでは意味がない。当事者の立場で何が必要か、気付いたこと、工夫すべき点、防災のあり方など気付いたことを部会で検討し、発信をしてほしい。例えば防災館パンフレットの音声コードはアクセスに関する案内のみでツアー内容の情報が確認できない等、情報を得たい障害者への配慮が欠けている点について、こちらから伝えていかないと障害者の声が届かない。

・他県ではサービス等利用計画の中に避難行動について避難ルート等を記載している。相談地域支援

ぶかいなどでもけんとうができるとうい。

◆^{けつろん}結論

じむきょくあん とく 組みみやスケジュールについてごうい。

じむきょく より ぼうさいたいけん ツアー(池袋防災館)について説明:参加希望表は7/10までにへんしんする。

4. ^{ほか}その他

◆^{とうじしやいいん}当事者委員からの意見

きくねん たぶかい ぼうちよう をしたが、こんねんど どうよう たぶかい ぼうちよう をしたい。たぶかい にってい 他部会の日程はいつになるか？

⇒せいかく にちじ ばしょ についてかんにん ごじつじむきょく きぼう いいん れんらく をすることとした。

5. ^{へいかい} 閉会の挨拶

じりつしえんきょうぎかい たかやまかいちよう より

とうじしやいいん みな やくわり がみえてきたと感じている。ぼうさいたいけん をする、みんせいいいん こうりゅう 当事者委員の皆さんの役割が見えてきたと感じている。防災体験をする、民生委員と交流すること

がもくてき ではない。ぼうさいひと ひとつとっても、しょうがいしゅべつ により困りごとのちがひがある。とうじしやいいん みな は

しょうがい あるかたがた だいひよう たちげ 代表する立場でもあり、みな なに ほんしん 発信していくこと、つた 伝わっていくことに

つな 繋がる。いろいろ しょうがい があるが、いちばんおもい しょうがい あるかたがた がスムーズに避難できることはだれ 誰にとって

も避難しやすいことにつな 繋がる。だれ 誰もがすみやすい、そうだん 相談できるたいせい 体制があれば、だれ 誰にとってもそうだん 相談しやす

いことになる。じんけん まも 守られやさしいまち 街づくりをしていくためには、とうじしやぶかい げんてん 当事者部会が原点になる。それぞれの

お 置かれているばしょ 場所、たちげ 立場で困りごとを出してほんしん 発信してもらいたい。